

在宅支援を事例から学び、 平時のつながりを考える

- 事例報告② 事例から学ぶ在宅支援
ワーク ② 在宅支援の困りごとから平時の
つながりを考える

スケジュール

9:10～	事例報告② 事例から学ぶ在宅支援	(60分)
10:10～	休憩	(10分)
10:20～	ワーク② 在宅支援、困りごとから平時のつながりを考える	(110分)
12:05～	昼食休憩	(60分)

ワークの目的

1. 被災者の状況や困りごとをイメージする。
2. 解決に向けてどんな取り組みが出来るかを具体的に考える。
3. 誰とどのように連携すればアプローチできるかを検討し、平時に何をしなければいけないかを考えるきっかけにする。

本日のワーク②では…

発災一か月後の2カ所エリアの在宅での

被災者の困りごとをイメージし、

その困りごとへの取り組みを、

誰と連携していくか、を考えてみよう！

状況設定の確認 (1日目同様)

■ 南海トラフ巨大地震

- 地震動：基本ケース
- 津波：ケース①、冬・夕

■ 静岡県内での被害

- 全壊・焼失棟数 : 285,000棟
- 半壊棟数 : 244,000棟
- 死者数 (早期避難率低) : 78,000人
- 重傷者 (早期避難率低) : 24,000人
- 軽傷者 (早期避難率低) : 52,000人
- 避難者数 (避難所：直後) : 645,000人
- 避難者数 (避難所外：直後) : 401,000人

ワーク②の状況設定（1日目同様）

- あくまでも被害想定に基づいた被害イメージ。
- 必ずしも現実にかかる被害ではない。今回の想定よりも被害は小さいかもしれないし、大きいかもしれない。
- 静岡県第4次被害想定調査の被害想定を基礎にしているが、実際の災害時の対応・対策がどこまで実現可能かは考慮できていない。
今回の想定はあくまでもワーク用と考える。

在宅避難者(地域)の状況設定

時系列で
在宅避難者(地域)の様相を
発災直後から
発災一か月後まで
考えてみます。

**「状況付与シート」(A3)
をご覧ください**

さて、そんな1ヶ月後の在宅避難者のいるエリアで

皆さんは

この地域を支援するために集まった
県内外混成チーム！！

まずは

在宅避難者の方々に「困りごととは何か」、
ヒアリング(聞き取り)に行きました。

向かった先は

2つの地域。

- ①「A市C町」 : 古くからある住宅街。
- ②「B町大字D」 : 中山間集落。

分かったことは？

地域の特性。被害状況。地域の方からの声。

「A市C町」の地域の特徴

- 主要駅から徒歩20分
- 地域の人口は3,500人くらい
- 古くからある住宅街。最近ではマンションもできるようになり住民が増えている。
- 自治会の活動は熱心に行われている。
- 高齢化率28%

「A市C町」被害状況

- 全壊・半壊が100棟程度
- 地域内の一部に津波浸水があり、床下浸水は200棟以上
- 電気は復旧しているが、ガスと上下水道が復旧していないエリアが40%程度ある
- 一部の住民が地区内の小学校に避難している（自治会長や役員などは避難所の運営に従事）
- 床上浸水した住宅は片付けが十分にできていない。避難せずに2階で暮らしている人もいる
- マンションからの避難や車中泊避難も多く見られる

「B町大字D」の地域の特徴

- 主要駅から車で30分
- 地域の人口は300人くらい
- 中山間集落。高齢者世帯、3世代世帯や
I ターン移住者が住んでいるところも点在
- 地縁組織の結束力があり、一時的に避難していたがほとんどは自宅に戻った
- 高齢化率45%

「B町大字D」の被害状況

- 全壊・半壊が32棟程度（地震被害）
- 地域全体で断水が続いている
- 電気、ガスは復旧
- 集落の主要道路が土砂崩れによって道路寸断により孤立した集落があった
- 建物の応急危険度判定によって家屋内で住めず、軒先や敷地内の倉庫、車中で暮らしている人もいる
- 家屋の片付けが進んでいない
- 親族を頼って沿岸部から避難している人もいるらしい

地域住民からの声

地域の民生委員やPTAからのヒアリング(聞き取り)結果をまとめてみると、大きく3つの課題がみえてきた。



食事・物資

情報

心身の健康

まずは、「食事・物資」の困りごとから解決策を考えてみよう！

民生委員やPTAからの聞き取り情報

食事・物資について

A市B町に特に
みられた困りごと

【困りごと①】

町内の公園で炊き出しはあるが、不定期なので定期的にやってもらえる
とありがたい。ただし、外国人がまとまって住んでいるマンションもあり、
イスラム教であるインドネシア人が多く、配慮が必要。

【困りごと②】

車中泊の方は避難所に行くことも気が引けるという方が多く、必要物資
も十分に届いていない状況がある。

【困りごと③】

近くのスーパーは津波で流され、生活用品などは遠くまで買い物に行か
ないと揃わない。

【困りごと④】

床上浸水した家などは、2階で生活しており炊事する環境が整っていない。
アレルギーのある子どもたちもあり、通常の食事が食べられないという声
も出ている。避難所で食事を配布していることも十分周知されていない。

この困りごと どうにかありませんか？

リーダーさん、
10分で共有できるように
進行をお願いします！

1.

困りごとに対して、
具体的にできること、
できそうな（アイデア含）
取り組みを付箋に書き出してみよう。

2.

みなさんの考え
(付箋)をワーク
シートに貼って
いきましょう。

3.

チームで共有しましょ
う。
同じキーワードでも、
考え方や伝えたいポイ
ントは異なるかもしれ
ません。全員積極的に
発言してください。

個人ワーク：5分

チームワーク：10分

この困りごと 誰と？どんな風に？ トライしますか

1.

誰と、どんな形で連携するかを
チームで考えて、ワークシートに
書き込んでいってください。

※事前課題の連携先を参考にし
てください。

2.

解決できない困りごとが出て
くるかもしれません。
新たにつながった方が良いと
ころや気づいた点を共有し、
ワークシートに書き込みま
しょう。

チームワーク：10分

例えば…

(ワークシート記載例)

食事・物資	困りごと①	外国人が、まとまって住んでいるマンションがある。イスラム教が多い。		
	困りごと②	自宅の2階で避難生活。アレルギーのある子どもたちがいる。		
取り組みを考える	連携を考える			
具体的にできること	誰と？	何を？どんな風に？	新たにつながった方が良いところ	
炊き出し	<ul style="list-style-type: none">・生協・社協(災害VC)・国際交流協会	<ul style="list-style-type: none">→ 食材の提供→ 炊き出し人員の確保→ 外国人向けのレシピの提供	<ul style="list-style-type: none">・子ども支援団体	

「食事・物資」「情報」「心身の健康」の3つのワークを行います。

ワーク(1) スタート！

「食事・物資」

民生委員やPTAからの聞き取り情報

情報について

A市B町に特に
みられた困りごと

【困りごと①】

去年引っ越したばかりで知り合いもいないため、車中泊を続けているという30代独身女性に出会った。必要なものを言うのも恥じらいがあり、避難所に行けないという。このようなケースの若い独身者が他にもいる可能性がある。

【困りごと②】

自治会長などが避難所にかかりきりで地域の取り組みが遅れている。さらに、マンションの状況把握に向かったがオートロックのため入ることができなかった。

【困りごと③】

避難所での食事の配布や町内での炊き出しのことを知らなかったという被災者もいるようだ。

【困りごと④】

SNSなどで情報は伝わっているようだが、古い情報やデマなども見受けられる。

ワーク(2) スタート！

「情報」

民生委員やPTAからの聞き取り情報

心身の健康について

B町大字Dに特に
みられた困りごと

【困りごと①】

子どもたちの遊び場である校庭や公園が閉鎖されており、子どものストレスも溜まっている。勉強をする場所も学校が避難所のため、限られている。

【困りごと②】

沿岸地域から避難している世帯もあるが、情報もあまり届かず心細いという声が出ている。

【困りごと③】

小学生がいる家庭を訪れたら父親が大きな声で怒鳴っていた。仕事がなくなりずっと家にいるそうだ。こうした家庭もいくつかあるという話も出ている。

【困りごと④】

趣味の畑が被災し、やる事がなくて家に閉じこもりがちになっている高齢者が多数いるとの情報が入っている。

ワーク(3) スタート！

「心身の健康」

全体発表

ワーク②振り返り